

KSKP Threshold

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ ニュースレター Vol.23

～すれっしょんど～ (出発点)

神戸薬物・アルコール依存リハビリテーションセンター

スレッシュョールドとは、新たな出発点、飛び立つ場所という意味です



Drug Addiction Rehabilitation Center

DARC

一日一生

コロナのことばかりお話しするのも非常にストレスの溜まるものです。誰がなんと言おうと、ダルクの仲間の安全を一番に考えることの舵を取るという使命を持ち、あっという間にもう直ぐ1年になろうとしています。心の折れる時も多々ありますが、今のところ全員無事に生活しています。

数ヶ月の金銭的な苦境も、多くのの方の支援による寄付金や、お米の寄付、そしてひょうごボランティア財団様、木口福祉財団様の助成や、持続化給付金で金銭的な苦境は、まだまだですが、なんとか生活できるところまで戻っています。私は少年院にいたときに、母から最初きた手紙に書いてあった言葉を思い出します。「父親というものは、家族に対して経済的不安にさせないこと、精神的不安にさせないこと、そして愛すること」と書かれていました。依存症に対して無力であり生きることがどうにもなくなってしまう。つながってきた仲間が助かっていく場所は、泥臭くても、家族のように安心できる場所だと思っています。それを大切にしてきた神戸ダルクも、このコロナ禍で、一旦バランスを崩しましたが、第3波が来る今も自分以外の力の助けを求める仲間の手をしっかりと掴んで歩いていきたいと思っています。

今年一年どうもありがとうございました。来年からもよろしくお願いいたします。

皆様の健康と、心の安心を心よりお祈り申し上げます。神に感謝。

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ 代表理事 梅田晴規

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ インフォメーションセンター

〒651-0048 兵庫県神戸市中央区雄略通1-1-20 長崎ハイム 2F

自立訓練(生活訓練)神戸市障害福祉サービス事業所 デイセンター リカバリー

〒653-0041 兵庫県神戸市長田区久保町7-7-18

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741 e-mail kobe.darc@gmail.com

ギャンブル依存相談ダイヤル 078-224-5441 kansai.recovery@gmail.com

共同生活援助(グループホーム) リカバリーホーム TEL078-647-7744 (神戸市須磨区)

姫路アディクションサポートセンター 〒670-0832 兵庫県姫路市双葉町80

智頭リトリートヴィレッジ 〒689-1411 鳥取県八頭郡智頭町八河谷杉の木ランド テニスコート下

www.kobedarc.org www.kansai-recovery.net

神戸ダルク

検索

あそこから自分の新しい人生は始まった

ヒコ

こんにちは、依存症のヒコです。今回は先日広島に連れて行ってもらったことを書きたいと思います。今から三年半前、広島で自殺未遂をしました。当時を思い出すと、まだ薬物を使っており、正常な判断ができなかったのだと思います。当時、山口県で働いていました。仕事の面で行き詰まり、人間関係でも大きな壁にぶつかり、このままでは、いつか死んでしまう、と考えるようになっていました。お世話になっている社長も薬物におぼれていて、周りを巻き込んで迷惑をかけていました。それを見て、こんな風にはなりたくないと思うようになりました。会社を辞めるといっても、一筋縄ではいかなくて、逃げることしか考えられませんでした。そこで、だれにも見つからないように、始発の電車に乗り、広島に行きました。広島に行っても何のあてもなく、ただ、山口県にいたくなかっただけでした。少しのお金があるうちに、何とかしなくてはと思っていましたが、気持ちとは裏腹な行動をしていました。まず、インターネットカフェに入り、薬物を使い遊んでいました。ふと現実に戻り、とりあえず刑務所で知り合った人に連絡を取ろうと思い、電話を掛けました。家を出るとき携帯電話を置いてきました。なので公衆電話から掛けたのですが、誰にかけてもつながりませんでした。そこで、逮捕されたときにお世話になった警察の人にまで、電話を掛けましたが、移動になっていてつながりませんでした。冷静な判断がその時できていれば、次の仕事を段取りしたりできたのですが、その時は、考えることができませんでした。そこで考えたのがもう一度刑務所に行こうと思い、広島の駅前で包丁を振り回そうと考えました。近くのスーパーに包丁を買いに行ったら包丁は買えませんでした。お金が足らなかったのです。やけくそになり、お金もないのにインターネットカフェに入り、とりあえずビールを注文し、天津飯を注文しました。カバンの中には大量の睡眠薬が入っていました。どうせ警察沙汰になるのなら、いっそこで死んでやるか、という気持ちになり、後先考えずに、ビールを飲みながら睡眠薬を飲みました。気が付けば病院の集中治療室でした。ああ死ねなかったんだと思いました。手足は縛られ身動きできないようになっていました。薬が効いており話もできませんでした。何日か経ち、話ができるようになったころ、病院の相談員の方が病室にきました、「大丈夫ですか?」「もう死にたいと思いませんか?」と声をかけてもらいました。そのとき、なぜか、死ななくてよかったと思いました。それから毎日病室にきて話を聞いてくれました。これから行くところがないことも、お金がないことも全部話しました。いろいろと考えてくれました。そこで提案されたのが、今お世話になっている神戸ダルクでした。退院の日が決まり神戸ダルクに行くことになりましたが、お金を持ってないことを知り、バス代を貸してくれることになりました。そのお金を借りて、待ち合わせのところまで行くことができ、無事に神戸ダルクにつきました。



その後も、毎月電話をかけてきてくれました。「順調にっています」と答えると、喜んでくれていました。半年ほど電話してきてくれましたが、もう大丈夫ということで、電話のやり取りはなくなりました。一年がたち、二年が過ぎ、三年が過ぎたころ、代表から、病院に借りたお金は返したの？と聞かれ、自分が自分のことでいっぱい、すっかり忘れていたことに気づきました。「それでよく病院でお世話になったことを、ミーティングで発言できるね」と言われました。今自分がいること、生きていられることは、もっと考えなくてはなりません。もちろんお金を返すことも大事だけど、きちんとお礼を言わなくては、と言われ、代表が広島で仕事があるということで急遽、広島に連れて行ってもらいました。病院につき、相談員室に入り、名前を言うと、お世話になった相談員の人が出てきてくれました。お世話になったことを伝え、お礼を言って、お借りしていたお金を返すことができました。今もダルクで頑張っていることを伝えると、よろこんでくれました。これで終わったわけではないけど、一つ区切りがついたと思いました。その夜、病院の隣のホテルで、窓から病院を見下ろしたとき、あそこから自分の新しい人生が始まったんだな、と思い、感無量でした。



私の体験談 金ちゃん

アディクトの金ちゃんです。今回は、どうやって僕が薬物と出会ったか、そしてどうやってダルクに繋がったかを書きます。僕は16歳の頃、シンナーからはじまって17歳で覚醒剤を知りました。シンナーは中学校の先輩から教えてもらい知りました。シンナーを吸った時は、ふわっとなって頭がぼーっとして花畑の幻覚を見て、とても幸福感に包まれてすごく幸せでした。それきり、シンナーにハマリ、シンナーをしょっちゅう吸うようになりました。覚醒剤は、最初友達がやってて、僕は友達が覚醒剤をしたのを止めてのですが、「止めろというんだったら、一回お前もやってみろ」と言われ、一回やったらとても気持ちよくなって、それからは薬がやめられなくなりました。その後結婚してた時もちょこちょこやっていて30歳～40歳までバイクの趣味にハマっていた事で、覚醒剤は止まっていたのですが、40歳になって大阪に出て来て、西成という待ちに住んで、そこが覚醒剤が盛んな街で、また覚醒剤に手を出してしまい、それから警察に捕まり一度は執行猶予でシャバに出てくるのですが半年しないうちにまた捕まって刑務所に2年10ヶ月の刑が決まって刑務所に行きました。刑務所の中で執行猶予の時に弁護士にもらったダルクのパンフレットを見て、このまま出所しても、また覚醒剤をしてしまうと思い、決心してダルクの代表に手紙を出しました。それから月一のペースで手紙のやり取りがはじまり、面会に来てくれた時はとても嬉しかったです。それから出所まで月一で手紙のやりとりは続き、手紙とニュースレターの差し入れが入った時はとても楽しく読ませていただきました。出所してから、まだ1ヶ月半近くなのですが、ダルクの仲間に助けられてなんとか生活してます。このまま覚醒剤が止まればいいなと思います。

登山プログラムに初参加しました！

スタッフ 濱津 太一

いつも神戸ダルクヴィレッジへのご理解、ご協力をいただきありがとうございます。10月の中旬頃に神戸ダルクの屈強な運動部たちと登山に行ってきました。僕はいつも仕事やら休みやらで安定の不参加が続いておりました。いつも「いいなーいいなー」とブツブツ言っておりました。今回やっと行けました！屋上を歩くような超展望コースでした。

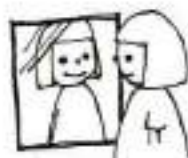
今回登った山は高御位山(たかみくらやま)といい兵庫県加古川市と高砂市の市境に位置する標高304メートルの山です。山としては全然高くありません。東播磨丘陵地高御位山系の連峰は播磨アルプスと呼ばれることもあり、その姿から播磨富士とも呼ばれる信仰の山です。高御位山から連なる外輪山のような馬蹄型の山々は播磨アルプスと呼ばれ地元の人たち親しまれています。高御位山の山頂には高御位神社が祀られていて、断崖の岩場からは播磨平野や淡路島、明石海峡を一望できる360°の大パノラマが楽しめます。また古くからの山岳信仰の遺跡が残されています。シラフで新しい趣味や楽しみを見つけていく事は回復を続けていく時に絶対に必要になっていきますね。



登山している時に考えていました。僕たちが新しい生き方を初めて行く時にライフワークとして実践しているのが12ステップです。「自由」という頂きに向かって東西南北いろんな方角から山頂を目指します。方角が違えば景色も環境も違います。成功や失敗、痛みや喜びも、体感し経験していくことは人それぞれのタイミングがありプロセスがあります。自分が信じた経路(信仰)をめげずに今日だけのサイズでトライし続けていくことでいつか山頂へたどり着きます。きっとそこで分かち合われることは、いつどんなときにも変わる事のない、正しい物事の筋道、真実の道理だと思います。

各々の信じた道を登っていけば景色や季節、経験が違えどその頂きでは普遍的な「何か」が待っているのだと思います。山登りやジョギング、筋トレなど何かにチャレンジする事は自分自身との対話、繋がりをフルに感じられる素晴らしい機会だと思います。山頂の岩場から空を見上げていました。気流に乗った鷹がしなやかに凜として優雅に空を舞っていました。気流の流れに抗わないあるがままの姿。自然体そのものでした。僕の回復はいつでも流れに逆行し力任せだと…。でも、だからこそ、今日を新たに。だなど。

“発展や発見は果て無い
あの日簡単に見えたはずの夢は陽炎”
ILL BOSSTINO.



支えがあるから出来る ニッシン

仕事を手放し、施設での回復をしようと決断した去年の9月頃鳥取のログハウスでの片付け作業で鳥取に訪れた時だと思います。代表のウメさんから「前職の実務経験があるから、こういう資格があるんだけど受検資格あるのでは？」という何気ない一言でした。どんな資格かも分からず、インターネットで調べ、将来のことも何も考えていなかった自分は、チャレンジすることで何か得るものがあるのではないかと取り組む選択をしました。その資格を受検するためには、まず講習会を受けることが前提なのですが、前職の職場に実務経験の証明書を発行してもらわないといけません。薬でどうにもならない状態で急に休職し、辞職した職場だったので、申し訳ない気持ちと不安が一杯でしたが、上司や事務の方に励ましと温かい言葉を投げかけていただきました。講習を受け、寮での勉強が始まりました。こたつで仲間と囲まれて、参考書を開いてノートを書いて勉強するのですが、学生時代にテスト勉強や就職活動するときに家族に囲まれながら、こたつで勉強していたことを思い出しました。そのなかで、まわりの仲間から元気づけしてもらったり、初詣のときに「合格祈願」のお守りをもらって元気づけってもらったり、まわりに支えてもらっているから取り組めているんだと感じました。



受験日がコロナの影響で延長したり、自分の勉強する気力を失ってしまうことがあったりとする最中、施設での生活も1年を迎えた4月、ウメさんから「アプレンティス(スタッフ見習い)」という役割をお願いしますか？」と声をかけていただき、寮のことや施設の簡単なお手伝いをさせていただくことになりました。そのなかで、連絡ミスや自分がパニックになったり、仲間とのトラブルなど、あら

ためて思い返すと「なんでそんなの起こる？」と自分でも思うようなことばかりでした。あらためて無力さと自分の問題が見えてくるようになりました。自分の問題として、助けを求められないことと、自分が抱え込もうとすることでした。すべて仲間から教えてもらったことでした。この役割をいただいて、取り組んでいく中で、自分は仲間やいろんな人たちに支えられていると強く感じました。資格の勉強やアプレンティスの役割もなんとか取り組んでいるのは、支えがあるからこそです。ありがとうございます。



鳥取の次は姫路(大掃除) ヒロ

僕は去年の3月に神戸ダルクに入寮し、自分の回復について日常を通して学ばせてもらっています。薬物依存症のヒロと言います。神戸ダルクが発行しているニュースレター「スレッシュヨルド(出発点)」を愛読していただいている方なら鳥取のログハウスで僕がやらかしたウンコ事件をご存知だと思います。(笑) あれから何度か鳥取にも足を運んで、ログハウスの維持に努めてきました。今現在も続くコロナ! 鳥取での生活では自然の中ですので、そんな心配もなく過ごせたことを思い出します。一日も早くコロナが終息することを願うばかりです。そうそう、今日のタイトルは『鳥取の次は姫路』でしたね。そうなんです。鳥取の別荘の次は、姫路にも別荘を買っちゃいました。



あっ! 間違いです。借りちゃいました(笑)「こんな大きな家どうするのか?」と、下見に来て思ったのですが、使い道はとにかく元々住んでいた方の荷物もそのまま状態で、それらを片付けること込みのお話で、その物件に先行隊として掃除に入りました。とにかく物量が多く、何から手をつけ片付けてばよいか、困り果てました。頭を悩めていても前に進みませんので、以前働いたことのある解体屋の微々たる経験から真似て、ゴミ出しから分類しながら進めていきました。最初の頃は、片付いていないので寝



泊まりできず、また給湯器も壊れていて風呂もお湯も出ないそんな状況でしたので、ホテルに泊まり、その現場に掃除・片付けに行きました。ちなみに泊まったホテルは日航ホテル(笑)そんな感じで少しずつ片付け、清掃も進めていきました。今では大分荷物少なくなり、給湯器も新しく取り付け、そこで寝泊まりしながら、ちょこちょこ片付け、掃除ができるまでになりました。

た。いつか、この物件の使い道何になるのか? 僕の想像ですが、姫路での家族出張相談の窓口かその他、保養所になるのかなあ~そんなことを思いながら一つ一つの荷物を片付け、掃除していました。いつまでも先行隊で....(笑)

この掃除を通して、僕自身の頭や心も整理整頓をする訓練かと捉えています。そんなひとつひとつが、誰かのお役に立つことに繋がればと。そのことに感謝です。

新年のニュースレターは1月に新年のご挨拶24号、そして3月末~4月には25号にて、2020年の助成金報告及び、新社屋のご紹介や、姫路での活動計画、神戸ダルクの書籍や冊子の紹介、新たな取り組みの活動状況をお知らせしていきたいと思っています。

今日も仲間と話していましたが、非常に長かった1年という人もいれば、私はあっという間だったように思いました。コロナがまだ日本では、外国の問題と思っていた2月頃からダルクの活動も含めて、アジア太平洋地域の仲間たちと問題にぶつかり、その苦悩から、とにかくどんな形でもいいから仲間と仲間をつなげようと必死に動いていたら1年が過ぎました。それでも十分ではありませんが、これが神戸ダルクにできることだったんだと思っています。まだ先の見えない社会ですが、コロナ収束時に、あのマスクが買えない騒動のようなことの繰り返しに乘らずに目の前を見ることを心がけたいと思います。

活動報告

10 月

神戸新聞取材
兵庫県保健部長会講演
尼崎市市民セミナースピーチ
保護観察所スマーブ参加
治療共同体研究会参加
ステップワークショップ開催
トラウマインフォームドケア研修参加
神戸ダルク家族会
バンクシー展参加
みなとのもり公園清掃ボランティア
12ステップ NA ハロウィン参加

11 月

ひょうご家族教室開催
出張家族相談姫路
出張家族相談尼崎
鳥取ログハウス冬支度
垂水病院スマーブ参加
神戸保護観察所新社屋見学来訪
もふもふねっとトラウマインフォームドケア学習会
ダルク追っかけ調査参加
ノエビアスタジアムサッカー試合観戦
広島県立可部高等学校定時制講演
あなたの声を届ける スピーチ大会
日本犯罪心理学会参加
ソーシャルキッチン タコス販売(毎週土曜)
ソーシャルスキルトレーニング開催
神戸ダルク家族会
APF 会議参加
有園基金基金強化勉強会参加
保護観察所スマーブ
あなたの声を届ける学習会
ブルート 40 年クリーンバースデー参加

12 月

加東市立三草小学校講演
ひょうご家族教室開催
出張家族教室姫路
出張家族教室尼崎
加古川学園家族教室・グループワーク・面談
フードバンク食材援助
兵庫県社協取材来訪
日本更生保護学会パネルディスカッション登壇
ヤマハマリクラブポート試乗会参加
西宮保健所講演
兵庫県立鳴尾高等学校講演
城崎温泉社会見学
各寮大掃除&ダルク大掃除

近況報告・活動予定

コロナによる活動の制限で何も動けませんが、それでも講演活動は入ってきます。ですが、それを活かす場所がないというのが、非常に悲しいところです。
神戸ダルクとしては、コロナのための隙間を埋める活動に徹しています。命がかかっているのに、無償での活動ですが仕方ありません。ですが、活動拠点が広がって、今後のコロナ収束後の支援で、地域のつながりが進めばいいと思います。ですが、依存症支援の復興というのは、おそらく後手後手になると思います。もう一踏ん張りですね。こんな時こそ、支援の場所で依存症の問題で困っているワーカーさんなども、これをみたら気軽にご相談ください。

神戸ダルク ヴィレッジ広報誌「Threshold」
年間購読のお願い

この広報誌「スレッシュホールド」の年間購読のお願いです。障害者低料第三種郵便物の取得が遅れており、皆様をお待たせしてしまいましたが、漸く第三種郵便物の取得ができました。年間購読費は年6回発行で2000円になります。お申し込みはFAX、電話、メール、または同封の振込用紙にてお願いいたします。お申し込みの際は「住所・氏名・電話番号」を必ず明記ください。

※ 配布用に、当ニューズレターを置いていただければ幸いです。たくさんの方に読んでいただけるように希望数を郵送いたします。私自身もこのような広報資料を見つけたことがきっかけで回復の場所を見つけることができました。ぜひ、まだ苦しむ依存症者の助けとなるようにご協力ください。

支援会員のお願い

神戸ダルク ヴィレッジでは、支援会員として、活動を支えてくれる方を募集しています。

兵庫県の薬物依存症者を助ける活動をご支援ください。
個人会員は1口 3000円(ニューズレター定期購読料を含む)からになります。刑務所内の方々の文通による支援のための切手代などに使わせていただきます。

ご連絡をお待ちしています。

領収書希望の方は一言ご記載ください

神戸ダルク ヴィレッジ

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741

e-mail: kobe.darc@gmail.com

電話相談 来所による面談 メール相談
相談の内容に関しての秘密は厳守します

逮捕・勾留中の方々への支援

刑務所・拘留所・留置所への面会、手紙などによる逮捕者及び保釈中の方への裁判での情状証人出廷や、刑務所出所者への薬物からの回復を希望する方の引受人としての指導対応や、出所前面談など、他機関と連携しながら対応しています。また、資料請求などもご連絡いただければ対応いたします。

★月曜～金曜 10:00～17:00

メールは24時間 OK。 kobe.darc@gmail.com

神戸ダルクへのご献金・献品のご支援本当にありがとうございました。

開設から今日までをたくさんの方々に支えられてきたおかげで、仲間一同、回復のプログラムに取り組むことができています。心より感謝いたします。これからも暖かく見守ってください。

ご献金

神戸女学院大学 金田 知子様 様 田中 朋子様 國吉 高虎様 間 明子様 伊佐 将人様 光田 豊茂様
名嘉 信義様 赤澤 房子様 大阪IIソントクラブ会長 橋山 玲子様 兵庫県教育委員会事務局 森島 崇文様
ナラノン河川グループ様

ご献品

小林 正英様 播磨社会復帰促進センター様 北村 央恵様 山崎 圭様 神戸市社会福祉協議会様
(令和2年10月11日～令和2年12月10日到着分・順不同 ※購読料・支援会員費の方を含む)

寄付や献品のお願い

昨年末は、年越しの際に多くの方からの、食料品などの寄付をいただきました。それによって、お正月も楽しく過ごせました。いつもは「贅沢は敵！」かの如く生活していますが、神戸ダルクでは、お正月は、少し豪華に普通の家庭のように、おいしいものを食べてもらおうという取り組みをしてきました。毎年、この「普通の正月」を経験することで、刑務所からでてきた仲間は、「何年ぶりだろうこんなに暖かい正月は」と言ってもらえます。それは、回復への大きなモチベーションになります。ご家庭で余っている食料品(米、野菜、乾物、味噌、醤油など)から洗濯洗剤やシャンプー、石鹸、などの日用品などがございましたら、神戸ダルクまでご献品ください。グローブ・自転車などもございましたら是非譲ってください。たくさんありましたら、車で取りに行くこともできます。回復の中で、普通の家庭の様に安心して家族でご飯が食べられる様な環境はもっとも回復支援に役に立ちます。

あっという間に年末になってきますが、自粛生活の下で、せめて美味しい団圓を年末年始は提供していきたいとずっと神戸ダルクではやってきました。少しの贅沢な食事を提供するためのご寄付をいただけると非常に助かります。お餅などもありましたら非常に助かります。心苦しいですが、ご協力をよろしくお願いいたします。

ご寄付振込先口座 ゆうちょ銀行

口座番号 00950-9-275937

口座名 シヤ)コウベダルクヴィレッジ

店番 〇九九 0275937

献品の送り先住所 651-0068 神戸市中央区旗塚通 1-1-20 長坂ハイツ2F

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ

編集後記

編集を終えて、この編集後記を書きながら、TVのニュースをみていると、年末年始自粛ということ、大きく報道されて緊迫感を感じながら、自分が乗っている船が沈没するのか否かというような心境を煽られる。経済的な終わりや感染による終わり。確かに、この非日常的な今は、ワクチンに頼るしかないのかもしれませんが、この感覚は、薬物をやめられなくなっていたあの頃とよく似ています。私たちの「回復」という船が沈没しないために、非常に苦しい思いを背負いますが、私にできる今日一日を、綺麗事なしに仲間の黒子となって今を生きています。皆様、良いお年を。

神戸ダルク ニュースレター Threshold(出発点) Vol.23

編集人 一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ 梅田靖規

印刷 プリントバック

〒651-0068 兵庫県神戸市中央区旗塚通 1-1-20 長坂ハイツ2F

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741

e-mail kobe.darc@gmail.com

www.kobedarc.org

価格 1部100円 年会費2000円

(購読料は年会費に入ります)

発行人 関西障害者定額発行物協会

〒543-0015 大阪市天王寺区真田山町 2-2 東陽ビル4階